

2023年12月29日

SEC カーボン株式会社
代表取締役社長 中島 耕 殿

株式会社クラウドファンディング

代表取締役 伊東 修



上場会社 SEC カーボン(5304) 企業価値向上のため株主からの要望書※1

〈はじめに〉

ご多用の中、平素よりミーティングの機会を幾度もいただき誠にありがとうございます。さらに、貴社の各事業を所管される取締役や部長の方々も含め建設的な対話を通じて、これまでに「中期経営計画」・「中長期経営ビジョンおよび中長期経営目標」の策定と開示、「配当性向の適正化」、「株式分割」、これらの弊社含む株主の要望につきまして実行していただきました。誠にありがとうございます。御礼申し上げます。

弊社が働きかけをさせていただいた当初のPBRは0.3倍台でしたので、貴社の上記対応を含めた企業努力の成果として、現在はPBR0.6倍台にまで上昇してきております。しかし貴社のPBRは1倍に到達していません。道半ばの状態であります。弊社といたしましては、貴社はPBR1倍を達成出来る企業であると考えております。

また、PBR1倍に向けて、中島社長は株主総会で「PBR1倍を達成出来る様に努力する」という発言もされており、弊社でも株主としていくらかでも貴社のお役に立てればと存じ、貴社の企業価値を効果的に向上させることに資する対応として、3項目について改めてまとめさせていただきました。是非実行いただきたく御要望申し上げます。

※1 本書面の作成に当たっては、当社の顧問法律事務所であるOMM法律事務所（代表弁護士 大塚和成）の確認を経ております。

また、本書面の作成においては公開情報に基づいた当社の分析・評価を記載した部分がありますが、何らインサイダー情報を含むものではなく、また、当社は貴社からインサイダー情報取得を希望するものではありません。

〈要望内容〉

1. 世界シェア 40%を誇る主力製品「アルミニウム製鍊用カソードブロック」の魅力についてアルミニウムメーカーのメリットとして具体的に公表する…2 頁
2. 2030 年売上高 540 億円へ向けた設備投資等の進捗情報の開示 … … … 3 頁
3. 貴社が保有している土地の時価について開示 … … … … … 4 頁

1. 世界シェア 40%を誇る主力製品「アルミニウム製鍊用カソードブロック」の魅力についてアルミニウムメーカーのメリットとして具体的に公表する

貴社のお客様であるアルミニウムメーカーがアルミニウムを製造する際に必要な装置である貴社の主要製品「アルミニウム製鍊用カソードブロック」は、お客様の生産効率を極めて高める事が出来るのにも関わらず、世界でまだ 3 割程度しか普及していない状況かと存じます。残りの 7 割以上については、「グラフィティックブロック」と呼ばれる生産効率の低いタイプが使用されております。貴社の「アルミニウム製鍊用カソードブロック」を使用することで、大幅な電力コスト削減に繋がり、アルミニウムメーカーのアルミニウム製造コストを大幅に下げる事が可能ということです。

より具体的に説明しますと、熱伝導率等、アルミニウムの製造時に「アルミニウム製鍊用カソードブロック」は「グラフィティックブロック」と比較すると、導入コストは多少高いが、低い電力量で長期安定的にアルミニウムを製造出来る大きなメリットや本体寿命が長いといった優位性があります。貴社のその素晴らしい魅力を分かり易く説明出来ますよう、一定の想定条件及び前提条件を用いて、アルミニウムメーカーの総合的な生産コストの大幅な低減効果度の可能性について数値にて公表するべきと考えられます。

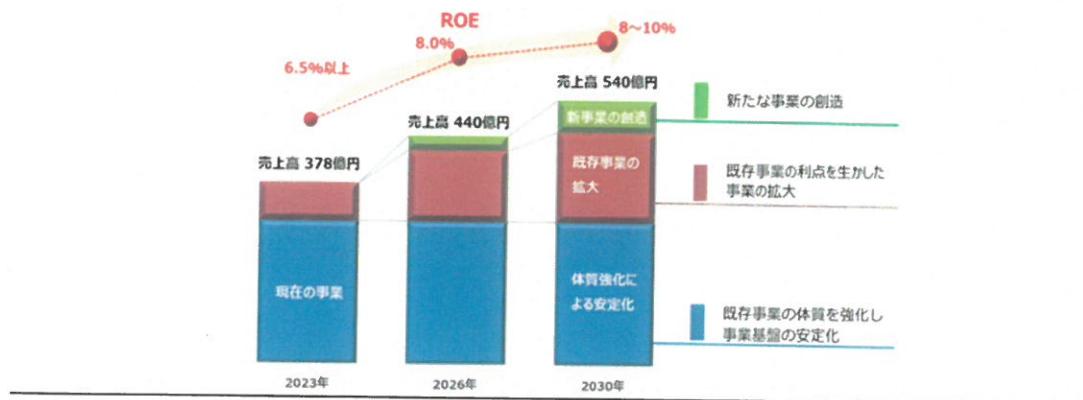
貴社のホームページにおいて、「グラフィティックブロック」との品質比較で『熱伝導性』『電気伝導性』等の優位性を明示されておりますが、非常に分かりにくい状況かと存じます。パブリックカンパニーとして、ステークホルダーに対しても貴社の売上高の約 7 割を占めている素晴らしい主力製品の強みを具体的な説明を用いて公表することが必要な状況かと存じます。

さらに、アルミニウム市場についてはEV市場がこれから急速に拡大していく中で、アルミニウムが軽量で加工しやすいという特徴があり、必要不可欠な素材という側面があります。具体的には、アルミニウム市場は2029年までに約1.5倍程度の成長が見込まれており、市場規模としては約30兆円規模という極めて巨大且つ大幅な成長が見込まれるマーケットであります。そういった現状において、貴社はアルミニウム製造を行うメーカーにとって必要となる製品を販売しており、大きな優位性もあります。この大きなメリットをもたらす製品「アルミニウム製錬用カソードブロック」の世界シェア4割を握っており、導入メリットについて具体的な数値で発信していくことが、企業価値をご理解してもらうために必要不可欠であると確信しております。

加えて、「アルミニウム製錬用カソードブロック」を国内で生産している唯一の企業であることからも、海外に工場がある同業他社と比較して円安メリットを大きく享受出来る点もあります。また、現状お客様であるアルミニウムメーカーは全て日本国外にあり、コスト面を含めて国際競争力がある点も、大きなチャンスであり、販売及びIRの強化をお願い申し上げます。

2. 2030年売上高540億円へ向けた設備投資等の進捗情報の開示

3. 中長期経営目標の策定



(※出所：貴社「中長期経営ビジョンおよび中長期経営目標」より抜粋)

貴社は「中長期経営ビジョンおよび中長期経営目標」において、これまでの最高水準である“売上高540億円”という目標を掲げられております(これまでの過去最高売上は約379億円。詳細は上記資料参照)。また、2026年には売上高440億円を掲げられているように、積極的な設備投資(約200億円)を行っております。その設備投資の内容及び進捗状況をこれから適宜開示していただき、計画進捗の具体化を示されることで、貴社の説明責任(アカウンタビリティ)が果たされると存じます。

また、設備投資についても対外的に公表することは勿論、何故設備投資を行い、その設備投資によって生まれる効果は何が見込まれるのか等、より詳細に質の高いIR活動をしていただくことが重要と考えます。

情報開示を適宜行い、マーケット及び株主の信頼感を獲得することは、最も効果的に貴社の企業価値及び株主価値の向上に繋がると共に、貴社にとっても役員、社員間で健全な緊張感をもたらし、業績へも良いインパクトを与える可能性がある有効な手段であるとされています。

3. 貴社が保有している土地の時価について開示

貴社が保有している土地の時価についても開示していただきたく存じます。前回の要望におきましてもお伝えさせていただきましたが、貴社のバランスシートに約12億円で計上されている土地が、弊社が貴社の公開情報の範囲内で路線価を基に試算した結果、時価としては約400億円以上となっております。是非こちらの時価算出に着手し、保有している土地の適性な価格を会社説明資料等に、開示していただきたく存じます。

本件は、会社の適切な現在の財務情報をステークホルダーに説明する際においては最もインパクトが大きい情報であると思料しております。純資産が679億円(2024年3月期第2四半期現在)に時価と簿価のギャップを考慮して388億円(時価約400億円-簿価約12億円)なので、実質的な純資産は約1,067億円(679億円+388億円)となる可能性があることを把握できることで、会社の信用力を高め、ステークホルダーからの信頼を得るという大きな意義がございます。さらに、貴社の将来を見据えた成長投資においても、その追加的な財務基盤が強固であることを対外的に明示できると共に、経営戦略にも良い影響をもたらすことが出来ると考えております。速やかに開示していただきたく存じます。